研修レポート

公・民・学の連携によるまちづくり　－千葉県柏市の視察－

桜川市総合戦略部地域開発課　主幹　軽部　徹

■はじめに

桜川市総合戦略部地域開発課から３名が，公益財団法人都市計画協会主催の第46回まちづくり研修会に参加させていただきました。

視察研修先は，千葉県柏市の「柏地域医療連携センター」および「柏の葉スマートシティ」です。

それぞれ，公・民・学の連携によって特徴のあるまちづくりを進められておりましたので，本稿で概要をご紹介いたします。

■柏地域医療連携センター

柏市では，東京大学・URと協力し，高齢者が住み慣れた地域で人間関係や生活環境を変えずに暮らせるまちづくりの具現化に向け，豊四季台地域を中心に，在宅医療の推進・生きがい就労の創生を目指したプロジェクトに取り組んでいます。本研修では，柏市の担当者様から地域包括ケアシステムに関する説明を受けた後，UR豊四季台団地内を視察いたしました。

①柏市における長寿社会のまちづくり

柏市では，終末期の療養場所として自宅を希望する市民が多いことを背景に，現在の「病院完結型」から在宅生活を支える「地域完結型」の医療・サービスへの施策転換を進めています。

第一に，かかりつけ医のグループ構成によるバックアップ体制の確保により，在宅患者の急性増悪時の受け入れや，入院時の必要な診療情報や患者・家族の意向の情報を提供することができるような体制を構築しています。

第二に，在宅医療を行う医師の増加，多職種の連携を図るため，研修会や訪問介護ステーションへの支援，看護師地域連携セミナーを開催しています。具体的には，各関係職はパソコン等により，リアルタイムで患者の情報を共有することになり，関係者の連携が図られやすい状況をつくりだしています。

また，市民啓発としては，情報誌の発行をはじめ医師・看護師による講演会に積極的に参加していただき理解を深めてもらっています。成果として，在宅療養支援診療所数と訪問介護ステーションが増加し，自宅看取り件数は６年間で2.4倍に増加しました。H26年には患者が病院から自宅に戻る際の調整機能の役割を果たす柏地域医療連携センターの運営が始まるとともに，サービス付き高齢者住宅「ココファン柏豊四季台」の入居も始まりました。しかし，急速に進む高齢化により，ますます在宅医療が増え，今まで以上に専門職，医師を増やす必要があるのが現状です。これらの課題を克服しながら在宅医療を推進して「地域＝病院」を実現させていくことが柏市の目標です。

また，介護予防として公民学の関係機関と連携し，元気高齢者の生きがいとなる就労・社会参加の促進にも力をいれています。

②UR豊四季台団地の建替

【豊四季台団地の様子】

豊四季台団地では，高齢者と子育て世帯の融合するまちづくりを目標としています。老朽化した豊四季台団地の建替え事業で，団地内に公園，認定こども園，柏地域医療連携センター，特別養護老人センター，さらに地域の福祉拠点として前述のサービス付き高齢者住宅「ココファン柏豊四季台」などをつくり，目標の実現を図っています。特に，団地内に誘致した「ココファン柏豊四季台」と「柏地域医療連携センター」を拠点とした在宅医療サービスの提供をすることで，24時間対応による地域包括ケアシステムを構築しています。

また，ECOプロジェクトとして，省エネ技術を取り入れて低炭素社会を目指す「お家でECO」や車のシェアをきっかけとし人々の交流ができる「お出かけでECO」，豊かな自然環境の中で暮らすための「お庭でECO」などを実施して，H23年度全建賞（住宅部門）を受賞しました。

［豊四季台団地内に誘致したサービス付き高齢者向け住宅］
１階に，診療所や薬局，地域包括支援センター，子育て支援施設等が入居し，地域包括ケアシステムの中心となっています

■柏の葉スマートシティ

柏市の北部に位置する，つくばエクスプレスの柏の葉キャンパス駅を中心としたエリアでは，区画整理事業による新市街地の開発が進められています。本視察研修では，柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）にて，柏の葉のまちづくり，UDCK設立の背景や役割をはじめ，実証実験や事業創出・デザインマネジメント・エリアマネジメントなどの様々な活動について説明を受けた後，柏の葉スマートシティツアーのゲートスクエアコースに参加し，柏の葉スマートシティにおける最先端のまちづくり・まちの取組みを体感いたしました。

①柏の葉アーバンデザインセンター

柏の葉アーバンデザインセンターは，UDCKと呼ばれています。UDCKは，大学と地域が空間的にも活動的にも融和し，そこから新たな文化や産業が生み出されるようなまちづくりを目指し創設されました。柏市・三井不動産・東京大学・千葉大学ほか計７団体の共同で運営しており，我が国で最初のアーバンデザインセンターです。まちづくりの企画・調整機能の一部を行政外部に独立した拠点として置くことで，先進的なマス・コラボレーションによるまちづくりに取り組んでいます。柏の葉エリアをモデルに先行的・実験的施策を実施し，その成果・知見を柏市内や千葉県全域，全国，全世界に展開していくことを目的に，まちづくりに関する「調査･研究･提案」を行うシンクタンク機能と実際のまちづくりの「調整･支援」を行うコーディネーター機能，これらを市民や社会に発信する「情報発信」機能の３つの機能をもち，様々な取り組みを進めていました。

［都市型模型］
UDCKには，誰もが触れる模型が展示されており，まちづくりを共有するための大切な仕掛けになっています。

②柏の葉スマートシティツアー

2014年から継続して開催しており，年間763件7,926名（2017年２月末現在）と多くの視察者が訪れています。

三井不動産が開発し，運営する「柏の葉ゲートスクエア」の施設を視察しました。国内最大級のコワーキングスペースを有する「KOIL」では，専門家が創業支援や起業家へのサポートをして新たな事業を創出しており，同施設内のスタジオスペースでは各種イベントを開催し，企業をはじめとする多く人が利用しています。また，健康サポートの拠点である「街のすこやかステーション」やホテルを見学。屋外では，創エネ・省エネ・畜エネの機能を集結させた「エネルギー棟」やメインストリートである駅前通り，芝生が心地良く災害時には避難エリアとしても活用される広場の「かしわのはらっぱ」などを案内していただきました。

［柏の葉キャンパス前の歩道に常設されているベンチ］（写真左）
公・民・学の連携で，歩道内に木製ベンチを設置することが可能になっており，ベンチや街路樹による空間の高質化が図られている。

［柏の葉キャンパス駅西口歩行空間 ］（写真右）
歩道と民間敷地内通路が一体となっている。
※赤い線から左側が民地，右側が歩道。

■おわりに

柏市の取組みでは，**公・民・学の連携**が非常に印象に残りました。大きな事業として，まずUR豊四季台団地の建替ですが，団地の建替え前に，柏市・東京大学・UR都市機構による「柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会」を発足させ，関係者による開発ビジョンの共有を図ったことで，リニューアル後の団地に，地域の医療福祉拠点としての機能を持たせ，現在のニーズに合うまちづくりを成立させていました。

次に，千葉県が施行する柏北部中央地区一体型土地区画整理事業ですが，こちらも柏市・三井不動産・東京大学・千葉大学等の７団体でUDCKを発足させ，街区全体としての開発ビジョンを共有化したことで，まちづくりにおける関係者の役割が明確となり，結果，スマートシティというコンセプトが強く感じられるまちになっていました。

今回の視察研修で，区画整理事業や再開発事業を進める際には，まず，**様々な主体と議論する場をつくること**，そして，**明確なコンセプトを設定すること**で**「議論の場」を「協働の場」に**していくことが，**事業の成功とまちづくりのカギになることを確認**することができました。